

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月15日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 3471502594 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 サンフェニックス | | |
| 事業所名 | グループホーム サンフェニックス | | |
| 所在地 (電話番号) | 福山市瀬戸町地頭分字小立2721番地 (電話) 084-949-2585 | | |
| 評価機関名 | 社団法人広島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 広島市南区皆実町一丁目6-29 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年3月11日 | 評価確定日 | 平成22年3月25日 |

【情報提供票より】(22年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------------|-----------------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 3 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 人 |
| 職員数 | 24 人 | 常勤 24 人, 非常勤 | 人, 常勤換算 15.62 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------------|-----------|
| 建物形態 | 併設/単独 | 新築/改築 |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り | |
| | 3階建ての | 1階 ~ 3階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 55,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 1,500 円 | |

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 7 名 | 20 名 |
| 要介護1 | 4 名 | 要介護2 | 6 名 |
| 要介護3 | 6 名 | 要介護4 | 8 名 |
| 要介護5 | 3 名 | 要支援2 | 名 |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 69 歳 | 最高 97 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------------|
| 協力医療機関名 | 花園クリニック・大石病院・寺岡整形外科・おきとう歯科 |
|---------|----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「サンフェニックス」は、関連の医療機関や介護事業所との連携が図られており、地域における福祉・介護の拠点となっている。当ホームが目指しているのは、法人理念をもとに利用者一人ひとりに「ゆったりと寄り添い思いやりの介護を提供する」ことであり、職員は常にそのことを念頭に置いて、利用者の立場に立って対応している。そのために業務改善やサービスの質の向上に向けた研修会や勉強会を充実しながら、職員自身のスキルアップに繋げている。利用者とのやりとりは温かみがあり、利用者とともに過す生活空間が大切にされている。全職員は多くの利用者の方々の、本人が覚えたい気持ち、やりたい気持ちを大切に、ゆっくりと、一つずつ繰り返し、あきらめないで、本人が新たに自分らしく生きていくチャンスを作られている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で期待されていた、今以上に職員間で自己評価の意義の理解と活用方法を理解することについては、その後、管理者、職員でよく話し合い理解した上で取り組まれている。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義を踏まえ、自己評価は全員で話し合いを行い取り組んだ。また、自己評価に取り組むことで改めて日々の業務やサービスを再度振り返ることができ、見直しのよい機会となっている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回の運営推進会議には、家族・地域の民生委員・地域包括支援センターの職員・法人職員・ホームの職員が参加し、ホームの状況報告、連絡事項等を伝えている。会議では、問題提起や意見交換があり、それらを日々の支援や業務に活かしている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホーム独自のアンケートや、日々の家族の訪問時に、家族からの相談ごとやホームに対しての意見、苦情を受け止めており、その内容を職員全員に伝え、運営に反映させている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 常日頃から町内の行事等の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。また、ホームの職員が町内の研修会の場に出向き、認知症に対しての講師をするなどの地域活動も活発に行なわれている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者により寄り添った思いやりの介護を提供し、利用者へ相談・助言などの支援ができることに重点を置いた理念を作りあげている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を掘り下げて職員全員で話し合い、各ユニット毎の毎月の目標を策定し、実践に取り組んでいる。職員は、常日頃から職員中心のケアになっていないかなど、注意点の話し合いを行い、ケアの意見の統一を目指し確認し合っている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 散歩や買物に出掛けたときなど地域の方と会話を楽しんだりしながら、交流を深めている。また、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力も行っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価及び外部評価の意義、目的を職員に伝え、職員全員で共有化を図ると共に、評価に取り組んでいる。日々の業務を見直す良い機会となっており、改善に向けてサービスの質の向上に努めている。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議では、事業所からの報告とともに参加者から質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、行政との関係づくりに共に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月1回発行している、月間報告紙に利用者の日々の暮らしぶりの報告、ホーム行事報告、案内などを記載し、家族に送付している。他に心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に限らず、電話等で様子を知らせている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者・家族とのコミュニケーションを取りやすい環境づくりに留意し、家族から得られた意見は職員全員でミーティング等で話し合っ運営や業務に反映するようにしている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 法人内の異動は極力控えているが、やむを得ない職員の離職や異動の際は、利用者のダメージを最小限に防ぐように配慮をしている。また、常日頃からユニット間で交流等を行いながら、顔馴染みの関係となるように努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は法人内での定期的な研修や、事業所外での研修に参加する機会を多く持ちながら、それらに参加しスキルアップに取り組んでいる。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他グループホームとの交流会や、研修会に参加し、事例検討や色々な意見交換等を通じてサービスの質の向上や、職員の意識向上に繋げている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>利用者の気持ちの負担にならないように利用前にはホームの見学や、遊びに来てもらいながら、ホームでの生活が安定するのを見極めて安定的な利用に移行している。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>調理方法や掃除・洗濯物のたたみなど、昔ながらの生活の知恵を利用者から教えてもらうことがある。また、利用者がホームの中で役割を担い職員と共に作業することが多く、支えあう関係を築いている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>日常生活の中での表情、不穏な行動の様子、発言内容など、それらを個別のケース記録に記入し、職員間での申し送りなどで情報の共有している。また、家族の訪問の際、家族から情報収集して、利用者の重いを汲み取っている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>本人・家族や関係者の気づきや意見、アイデアを反映しながら、本人本位の計画を作成している。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>介護計画で対応できない本人、家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しを行っている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居の際、利用者・家族と話し合い、同意を得た上で併設の医療機関の医師をかかりつけ医としている。以前からの馴染みのかかりつけ医への受診支援は家族の意向を踏まえ、対応している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りについての同意書を作成しており、契約時にはホームの方針を説明している。重度化した際は併設している医療機関や介護事業所へ入院・入所することもあるが、本人・家族・関係者が状態を確認しながら話し合い、方針の共有を図っている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉遣いなど気になることがあればその都度、管理者が指導している。また、職員全員が利用者の尊厳を傷つけないようお互い注意し合うよう努めている。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはおおまかに決まっているが、その日のレクレーションや行事を利用者に提案しながら、行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 下ごしらえや盛り付け、片付け等職員と一緒にいき、食事に関する一連の作業を通じた利用者の力の場面作りをしている。事業所独自のアンケートの活用により、食事が今以上に美味しく食べて、楽しくなるように取り組んでいる。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人や家族から一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、相談しながら個別にあった入浴の支援を行っている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 1日の流れはおおまかに決まっているが、その日のレクレーションや行事を利用者に提案しながら、行っている。寝たいときには寝たり、食事の時間にゆとりをとったり、一人ひとりのペースに合わせて対応をしている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や心身の状態にあわせて、散歩に出かけて気分転換を図っている。食器の片づけや、掃除、洗濯物たたみなど、習慣、希望、有する力を踏まえて、何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握し、支援を行っている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 利用者が外に出たくなる場面や理由、行き先などをよく知ったうえで、職員の見守りや連携プレーで鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルを作成し、定期的に利用者とともに避難訓練を実施している。また、母体組織や併設の事業所ともいざといった時の連携、協力体制が構築されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人の管理栄養士の専門的なアドバイスをもらったり、嚥下が悪い方などへの個別にあった食事支援を行っている。栄養摂取量や水分補給は記録により把握され、職員が共有されている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は、五感刺激への配慮がなされており、居場所が居心地よく、自分なりの活動がしやすくなるように配慮がなされている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には本人が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれており、安心して過ごせるように配慮がなされている。 | | |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス (あやめ)

評価年月日 22 年 2 月 1 日

記入年月日 22 年 2 月 17 日

この基準に基づき、別紙の実施方法

記入者 職 介護職員 氏名 藤井順子

のとおり自己評価を行うこと。

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|

理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 法人の理念を基に「ゆったりと寄り添い思いやりの介護を提供する」を理念とし、その人らしく生活できるように取り組んでいる。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 理念から月の目標をたて、その取り組みについて報告し、問題点などを管理者と面談で解決していく仕組みがある。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 運営推進会議や家族会、地域行事等の参加時に触れ合うことで理解をして頂けるようにしています。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 運営推進会議を通し、町内の方への訪問を呼び掛けている。また、町内の研修に参加し、認知症の理解を深めてもらうように努力している。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域活動の参加や近隣地域の行事等の参加で交流ができるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 近隣地域の高齢者との交流は、取り組めていない。 | | |
| 3 理念を实践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 全職員で自己評価の作成に取り組み、グループホームの役割の理解、ケアの改善などに活用している。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 全職員が運営推進会議に参加できる体制をつくり、外部の方の意見を聞きサービス向上に活かしている。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 現在は取り組んでいない。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 個々の必要については、家族からの相談や依頼で状況に応じた支援をしている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束委員会を設置し、定期的に研修を取り入れ、職員が継続的に学べる機会を設けている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約解除時には、入居者や家族が不安にならないよう説明し、解除後でも分からないことなどは相談してもらえるようにしている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 入居者の不満などを聞く機会は設けていない。ただし、日々の生活の中で、入居者の表情や言動に注意し、意見として運営に反映させている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 月に1回の月間報告で、生活状況や健康状態などを知らせている。また、入居者の状況に応じて電話連絡や報告をしている。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 面会時や家族会で家族の意見を聞くようにしている。不満や苦情に対しては迅速に解決できるようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ユニットチーフが、日々、職員の意見や提案を聞きとれるようコミュニケーションを取り、管理者や代表者に相談できるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 入居者の要望や状況での時間の確保は出来るだけ調整できるように努めている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>ホーム内での移動は定期的実施している。入居者にダメージが無いようにユニット間の申し送りや応援体制で顔なじみになれるよう配慮している。職員の離職の軽減の為、定期的に個人面談を実施している。</p> | | |
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> | <p>年間を通じて内部、外部に参加できるよう研修の確保をしている。</p> | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | <p>認知症実践者研修性の受け入れで交流のきっかけづくりをしている。研修などの参加で意見交換や情報交換を行っている。</p> | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | <p>定期的な個人面談を行い、悩みや今後のことについて相談できる仕組みがある。</p> | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | <p>業務連絡表で目標の設定を行い、その月の業務内容で勤務状況の把握をしている。そのことから、努力や実績の評価をして向上心が持てるように取り組んでいる。</p> | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | <p>入居前に事前面談を行い、本人、家族から十分に話を聞き機会をつくっている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話を聞く機会を設け、今後のことを一緒に考える努力をしている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 相談内容により適した対応ができるようにしている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 御本人の性格や今までの生活状況から、雰囲気に馴染むよう見学や遊びにこれる体制をとっている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活の中で、できることを見極め、共同して行うこと、支援が必要なことなど状況に応じて行っている。また、料理作りでは、入居者が職員に教える場面がよく見られる。 | | |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族面会や連絡時に入居者の状況や日常の様子を知らせている。伝えたい事や変わったことがあれば、その都度連絡し一緒に支えてもらうように支援している。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 面会時や家族会など、日々の生活の中での気づきや入居者の思いなどを代弁し、家族との交流や家族への思いを伝える努力をしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 30 | <p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> | <p>要望や依頼で支援するための取り組みなどを検討していきたい。</p> | | |
| 31 | <p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p> | <p>利用者が集まり過ごせる空間提供し、孤立している入居者に対しては職員が中に入り利用者同士の関わりが持てるように努めている。</p> | | |
| 32 | <p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p> | <p>家族がホームを必要とされれば、継続的な関係が断ち切れないようにしている。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div> | | | | |
| <p>1 一人ひとりの把握</p> | | | | |
| 33 | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>入居者や家族からの情報収集や日常生活から本人の思いを汲み取る努力をしている。</p> | | |
| 34 | <p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p> | <p>入居前や入居後、生活状況やサービス利用など、本人や家族に聞き取れることは聞きとれるよう努力している。</p> | | |
| 35 | <p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p> | <p>一日の介護記録で入居者の健康面、心身状態、役割の参加などを記録に残し、入居者の全体像がみえるように努めている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 入居者が生き生きとした生活が継続できるよう、本人の持っている力や能力が活用できるような介護計画が作成できるようにしている。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 6 ヶ月単位で見直しを行い、現状にそくした計画作成をしている。変化が生じた場合は、現状にあった計画作成ができるようにしている。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の申し送りで、入居者の情報を共通理解できるようにしている。計画作成者に申し送り、見直しができるようにしている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 地域の方、ボランティアの方の協力により、本人の意向にできる限り応じた支援ができる体制を整えている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他の施設との相談員をサービス支援の相談や協力体制はできている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 必要に応じて対応していく体制はできている。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 家族の意向に沿うようにしている。入居者の状態におうじた受診を家族に説明し納得いただき支援している。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 主治医の定期的な回診で、入居者の状態を相談、助言、指示を受けられるようにしている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護師が常勤で勤務し、日常の健康管理やかかりつけ医との連携を行っている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入居者の性格や日常の様子を申し送りをしている。定期的な面会を利用し、状況に応じた連携をとっていきたい。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>重度化した入居者の終末期の意向を書面で聞き取りしている。入居者の意向を職員が共有できるよう書面を計画書に添付する。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>入居者の状況変化で対応できるよう、看護師がかかりつけ医と連携をとっている。変化に対しての対応はカンファレンスで職員が状況に応じての対応ができるようにしている。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>転居の際には、情報提供を十分にいき、家族及び関係者との情報交換で入居の負担が少なくなるよう努力している。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | | | |
| <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>相手の目線や尊敬の気持ちを持って対応することで、一人ひとりの尊厳が損なわれないような援助を心がけている。</p> | | |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>入居者の話をゆっくり聞き、コミュニケーションを大切に、言葉に出せない事や言えない事、日々の生活の中から汲み取る努力をしている。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>入居者の思いを優先した支援を心がけているが、状況に応じての希望に添えないときもある。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|-------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 入居時、起床時に身だしなみを整えていただくようにしています。服もその日の天候や温度によって調整できるよう声かけしています。理美容は、本人の負担や混乱を招かないよう希望に添えるよう努力しています。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 入居者の力量にあった取り組みとして、食材の準備、調理、片付け等を 個々の入居者に職員が声をかけ参加できるように心がけています。 | | 現在、一日を通してのグループホーム内の食事提供は週4回を行っているが、状況を見ながら増やしていくように取組んでいきたい。 |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 施設からの提供されるものを摂っていただいている。毎月2回のお茶会を開催している。 | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 個々の入居者の排泄状況に応じた援助や介助を実施している。紙おむつの使用を避け、布パンツ、パットで装着時の違和感を軽減できる対応をしている。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 一人ひとり、曜日や時間帯で入浴を決め、本人の意向を大切にしている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 個々の身体状況や睡眠状態に応じた対応をしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|--|------------------------|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。 | 一日の生活がその人らしく生活できるように状況を見ながら対応している。 | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。 | 体制はできているが, 現在, 家族の希望もないため実施していない。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。 | 散歩は入居者の希望に沿ってできる限り支援している。その日の本人希望に沿った買い物や外出は予定が立てられていないと難しいところがある。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 家族の依頼があれば自宅に戻り, 家族と過ごせる機会や外出, 外泊を支援している。又事業所で家族と打ち合わせをし, 個別に希望を聞き支援している。 | | 時候のあいさつや 手紙が出せるよう支援していきたい |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 要望があれば支援できる体制がある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族や馴染みの人が来所された時は, 職員は笑顔で明るく接するようにしている。又, 来訪者と入居者が気兼ねなく過ごせるような環境づくりをしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束委員が中心となり、身体拘束をしないケアの取り組みを状況に応じてできるよう、定期的な勉強会で身体拘束や虐待の理解を深める体制を整えている。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 鍵をかけないでできるようなケアが実践できるように個々の入居者の行動を職員が把握できるような体制を整えている。日中は玄関を開放している。 | | |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は、入居者一人ひとりの行動パターンを把握し、昼夜を通して見守りを行っている。夜間は、1時間毎の巡回で安全に配慮している。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 刃物などがある場所は、現在、入居者が近づきあげることがない為、注意をはらっているものの鍵はかけていない。 | | 職員の目の届かない時間帯は、鍵をかけて管理する |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 緊急時のマニュアルをもとに、内容を把握し 事故防止に努めている。インシデント、アクシデントリポートの提出で事故に応じた対応方法を事故対策委員にて検討する体制がある。 | | |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 緊急マニュアルをもとに 看護師と連携を取り、急変や事故発生に備えている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|---|-----------------------|---------------------------------|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年に2回の防災訓練で夜間と昼間を想定し、入居者と職員が協力し避難ができるよう行っている。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。 | 入居時や個人の身体状態によって転倒や誤嚥などの起こり得るリスクを説明し、対応方法などについて説明している。併設施設のリスク委員会と対策を検討する仕組みがある。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 朝の申し送りで入居者の健康状態を把握している。体調の変化や異常がある場合は、看護師に申し送り適切な指示、対応ができるようになっている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 投薬シートを作成し、個々の薬状況を把握し、処方箋で主な作用や飲み方、注意事項などが確認できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 排便習慣を把握し、状況に応じた散歩や水分補給で便秘の予防に努めている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 個人の状況に合わせて一日3回の食後のうがい、歯磨きを実施している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 個人の病歴や食習慣に合わせた対応に心がけている。例えば、活動量が少ない人と活動量の多い方では主食の量を増減して対応。水分量は、1300cc が日常的に取れるよう、提供時間や本人の好みのものを提供するなどの工夫をしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | 感染マニュアルを作成し、手順に沿った対応ができるようになっている。日頃から手洗い、うがい、設備品の消毒の実施。状況に応じて感染委員からの予防対策などの指導も受けている。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 食材取り扱い時、使い捨て手袋を利用する。夜間、冷蔵庫内の食品の賞味期限の管理、庫内消毒を行い、食品の衛生管理に努めている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 玄関先に季節の花や植物を植えるようにしている。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 天窓からの日差しは、日差し遮断フィルムはって対応。玄関周りを落ち着いた雰囲気にするため、季節の飾りや椅子などを配置し利用者がゆったりと過ごせるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|-----------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共用の庇`ンク`以外に廊下を利用し、畳ベンチの設置でも、気の合う同士でのくつろげる空間を造っています。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居の際には、少しでも従来の生活空間と違和感が無いよう、馴染みの家具や寝具、趣味の品物等の持ち込みをお願いします。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 各居室に換気扇、冷暖房機器の設置。廊下やリビングにも換気、空調設備を完備しています。また、定期的窓を開けての換気を実施しています。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 要所毎に手すりの設置。トイレには身長差の解消のための高さ調整の踏み台を設置するなど、個人が安全に生活できるよう配慮しています。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 居室やトイレ、浴室とそれぞれの表札を入居者の目の高さに設置し、場所の認識や混乱を招かないような工夫をしています。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 室外に物干し場を設置。利用者が利用できるようにしている。室外のプランターの水やりは掃き掃除などは入居者ができるように支援している。 | | |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス (もくれん)

評価年月日 22 年 2 月 1 日

記入年月日 22 年 2 月 17 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 介護職員 氏名 武田美津枝

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|

理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 法人の理念を基に「ゆったりと寄り添い思いやりの介護を提供する」を理念とし、その人らしく生活できるように取り組んでいる。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 理念から月の目標をたて、その取り組みについて報告し、問題点などを管理者と面談で解決していく仕組みがある。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 運営推進会議や家族会、地域行事等の参加時に触れ合うことで理解をして頂けるようにしています。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 運営推進会議を通し、町内の方への訪問を呼び掛けている。また、町内の研修に参加し、認知症の理解を深めてもらうように努力している。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域活動の参加や近隣地域の行事等の参加で交流ができるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 近隣地域の高齢者との交流は、取り組めていない。 | | |
| 3 理念を实践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 全職員で自己評価の作成に取り組み、グループホームの役割の理解、ケアの改善などに活用している。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 全職員が運営推進会議に参加できる体制をつくり、外部の方の意見を聞きサービス向上に活かしている。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 現在は取り組んでいない。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 個々の必要については、家族からの相談や依頼で状況に応じた支援をしている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束委員会を設置し、定期的に研修を取り入れ、職員が継続的に学べる機会を設けている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約解除時には、入居者や家族が不安にならないよう説明し、解除後でも分からないことなどは相談してもらえるようにしている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 入居者の不満などを聞く機会は設けていない。ただし、日々の生活の中で、入居者の表情や言動に注意し、意見として運営に反映させている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 月に1回の月間報告で、生活状況や健康状態などを知らせている。また、入居者の状況に応じて電話連絡や報告をしている。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 面会時や家族会で家族の意見を聞くようにしている。不満や苦情に対しては迅速に解決できるようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ユニットチーフが、日々、職員の意見や提案を聞きとれるようコミュニケーションを取り、管理者や代表者に相談できるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 入居者の要望や状況での時間の確保は出来るだけ調整できるように努めている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>ホーム内での移動は定期的実施している。入居者にダメージが無いようにユニット間の申し送りや応援体制で顔なじみになれるよう配慮している。職員の離職の軽減の為、定期的に個人面談を実施している。</p> | | |
| <p>5 人材の育成と支援</p> | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p> | <p>年間を通じて内部、外部に参加できるよう研修の確保をしている。</p> | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | <p>認知症実践者研修性の受け入れで交流のきっかけづくりをしている。研修などの参加で意見交換や情報交換を行っている。</p> | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | <p>定期的な個人面談を行い、悩みや今後のことについて相談できる仕組みがある。</p> | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | <p>業務連絡表で目標の設定を行い、その月の業務内容で勤務状況の把握をしている。そのことから、努力や実績の評価をして向上心が持てるように取り組んでいる。</p> | | |
| <p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> | | | | |
| <p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p> | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | <p>入居前に事前面談を行い、本人、家族から十分に話を聞き機会をつくっている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話を聞く機会を設け、今後のことを一緒に考える努力をしている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 相談内容により適した対応ができるようにしている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 御本人の性格や今までの生活状況から、雰囲気に馴染むよう見学や遊びにこれる体制をとっている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活の中で、できることを見極め、共同して行うこと、支援が必要なことなど状況に応じて行っている。また、料理作りでは、入居者が職員に教える場面がよく見られる。 | | |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族面会や連絡時に入居者の状況や日常の様子を知らせている。伝えたい事や変わったことがあれば、その都度連絡し一緒に支えてもらうように支援している。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 面会時や家族会など、日々の生活の中での気づきや入居者の思いなどを代弁し、家族との交流や家族への思いを伝える努力をしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 30 | <p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> | <p>要望や依頼で支援するための取り組みなどを検討していきたい。</p> | | |
| 31 | <p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p> | <p>利用者が集まり過ごせる空間提供し、孤立している入居者に対しては職員が中に入り利用者同士の関わりが持てるように努めている。</p> | | |
| 32 | <p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p> | <p>家族がホームを必要とされれば、継続的な関係が断ち切れないようにしている。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div> | | | | |
| <p>1 一人ひとりの把握</p> | | | | |
| 33 | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>入居者や家族からの情報収集や日常生活から本人の思いを汲み取る努力をしている。</p> | | |
| 34 | <p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p> | <p>入居前や入居後、生活状況やサービス利用など、本人や家族に聞き取れることは聞きとれるよう努力している。</p> | | |
| 35 | <p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p> | <p>一日の介護記録で入居者の健康面、心身状態、役割の参加などを記録に残し、入居者の全体像がみえるように努めている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 入居者が生き生きとした生活が継続できるよう、本人の持っている力や能力が活用できるような介護計画が作成できるようにしている。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 6 ヶ月単位で見直しを行い、現状にそくした計画作成をしている。変化が生じた場合は、現状にあった計画作成ができるようにしている。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の申し送りで、入居者の情報を共通理解できるようにしている。計画作成者に申し送り、見直しができるようにしている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 地域の方、ボランティアの方の協力により、本人の意向にできる限り応じた支援ができる体制を整えている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他の施設との相談員をサービス支援の相談や協力体制はできている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 必要に応じて対応していく体制はできている。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 家族の意向に沿うようにしている。入居者の状態におうじた受診を家族に説明し納得いただき支援している。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 主治医の定期的な回診で、入居者の状態を相談、助言、指示を受けられるようにしている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護師が常勤で勤務し、日常の健康管理やかかりつけ医との連携を行っている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入居者の性格や日常の様子を申し送りしている。定期的な面会を利用し、状況に応じた連携をとっていききたい。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>重度化した入居者の終末期の意向を書面で聞き取りしている。入居者の意向を職員が共有できるよう書面を計画書に添付する。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>入居者の状況変化で対応できるよう、看護師がかかりつけ医と連携をとっている。変化に対しての対応はカンファレンスで職員が状況に応じての対応ができるようにしている。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>転居の際には、情報提供を十分に行い、家族及び関係者との情報交換で入居の負担が少なくなるよう努力している。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>相手の目線や尊敬の気持ちを持って対応することで、一人ひとりの尊厳が損なわれないような援助を心がけている。</p> | | |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>入居者の話をゆっくり聞き、コミュニケーションを大切に、言葉に出せない事や言えない事、日々の生活の中から汲み取る努力をしている。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>入居者の思いを優先した支援を心がけているが、状況に応じての希望に添えないときもある。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 入居者の好みを大切にし、服装、髪形のあだパイスをしている。理美容は、入居者、家族の意向に添うよう努力している。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 入居者の力量にあった取り組みとして、食材の準備、調理、片付け等を 個々の入居者に職員が声をかけ参加できるように心がけています。 | | 現在、一日を通してのグループホーム内の食事提供は週4回を行っているが、状況を見ながら増やしていくように取組んでいきたい。 |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 体調を考慮し、できる限り、本人の好みの物を取り入れ提供している。併設施設にある売店を利用し、本人の好みの物が買えるよう支援している。 | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 排泄は、定期的なトイレ誘導、訴え時、落ち着かないなど個人のサインを見極めて援助しています。紙おむつの使用はできる限り避け、P トイレ、布パンツを使用し、不快感の軽減に取り組んでいます。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 入居者の希望を取り入れ、希望や以前の生活習慣に合わず努力はしているが、職員の都合で入浴をしていることが多い。 | | 可能な限り、入居者の希望に沿った入浴支援に取り組んでいきたい。 |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 一人ひとりの身体状況や疲れ具合を把握し、休息を促す支援をしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|------------------------|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 一日の生活がその人らしく生活できるように状況を見ながら対応している。 | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 体制はできているが、現在、家族の希望もないため実施していない。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 季節の行事、地域の行事などに参加し、外出や散歩の機会を増やしている。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 家族の依頼があれば自宅に戻り、家族と過ごせる機会や外出、外泊を支援している。又事業所で家族と打ち合わせをし、個別に希望を聞き支援している。 | | |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 要望があれば支援できる体制がある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族や馴染みの人が来所された時は、職員は笑顔で明るく接するようにしている。又、来訪者と入居者が気兼ねなく過ごせるような環境づくりをしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束委員が中心となり、身体拘束をしないケアの取り組みを状況に応じてできるよう、定期的な勉強会で身体拘束や虐待の理解を深める体制を整えている。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 鍵をかけないでできるようなケアが実践できるように個々の入居者の行動を職員が把握できるような体制を整えている。日中は玄関を開放している。 | | |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は、入居者一人ひとりの行動パターンを把握し、昼夜を通して見守りを行っている。夜間は、1時間毎の巡回で安全に配慮している。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 個々の持ち物は一人ひとりの状態に応じて、職員が預かっていることもある。管理のできる方は、自分で管理していただいている。包丁などの危険なものは、鍵をかけて保管、管理している。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 緊急時のマニュアルをもとに、内容を把握し、事故防止に努めている。インシデント、アクシデントリポートの提出で事故に応じた対応方法を事故対策委員にて検討する体制がある。 | | |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 緊急マニュアルをもとに、看護師と連携を取り、急変や事故発生に備えている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年に2回の防災訓練で夜間と昼間を想定し、入居者と職員が協力し避難ができるよう行っている。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。 | 入居時や個人の身体状態によって転倒や誤嚥などの起こり得るリスクを説明し、対応方法などについて説明している。併設施設のリスク委員会と対策を検討する仕組みがある。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 朝の申し送りで入居者の健康状態を把握している。体調の変化や異常がある場合は、看護師に申し送り適切な指示、対応ができるようになっている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 投薬シートを作成し、個々の薬状況を把握し、処方箋で主な作用や飲み方、注意事項などが確認できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 排便習慣を把握し、状況に応じた散歩や水分補給で便秘の予防に努めている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 個人の状況に合わせて一日3回の食後のうがい、歯磨きを実施している。義歯使用の方には、週一回の洗浄剤での消毒を行っている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 個人の病歴や食習慣に合わせた対応に心がけている。例えば、活動量が少ない人と活動量の多い方では主食の量を増減して対応。水分量は、1300cc が日常的に取れるよう、提供時間や本人の好みのものを提供するなどの工夫をしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | 感染マニュアルを作成し、手順に沿った対応ができるようになっている。日頃から手洗い、うがい、設備品の消毒の実施。状況に応じて感染委員からの予防対策などの指導も受けている。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 食材取り扱い時、使い捨て手袋を利用する。夜間、冷蔵庫内の食品の賞味期限の管理、庫内消毒を行い、食品の衛生管理に努めている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 季節の花、植物を置き、くつろげる空間をつくっている。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 天窓からの日差しは、日差し遮断フィルムはって対応。居間や台所は落ち着いた雰囲気にするため、季節の飾りや椅子などを配置し利用者がゆったりと過ごせるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|-----------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共用の庇`ンク`以外に廊下を利用し、畳ベンチの設置でも、気の合う同士でのくつろげる空間を造っています。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居の際には、少しでも従来の生活空間と違和感が無いよう、馴染みの家具や寝具、趣味の品物等の持ち込みをお願いします。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 各居室に換気扇、冷暖房機器の設置。廊下やリビングにも換気、空調設備を完備しています。また、定期的に窓を開けての換気を実施しています。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 要所毎に手すりの設置。トイレには身長差の解消のための高さ調整の踏み台を設置するなど、個人が安全に生活できるよう配慮しています。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 居室やトイレ、浴室と、それぞれの表札を入居者の目の高さに設置し、場所の認識や混乱を招かないような工夫をしています。 | | |
| 87 | 建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 室外のプランターの水やりは掃き掃除などは入居者ができるように支援している。 | | 建物の周りで入居者が外気浴ができるような設備を整えていきたい。 |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームサンフェニックス (すいせん)

評価年月日 22 年 2 月 1 日

記入年月日 22 年 2 月 17 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 介護職員 氏名 濱崎雅徳

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|

理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 法人の理念を基に「ゆったりと寄り添い思いやりの介護を提供する」を理念とし、その人らしく生活できるように取り組んでいる。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 理念から月の目標をたて、その取り組みについて報告し、問題点などを管理者と面談で解決していく仕組みがある。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 運営推進会議や家族会、地域行事等の参加時に触れ合うことで理解をして頂けるようにしています。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 運営推進会議を通し、町内の方への訪問を呼び掛けている。また、町内の研修に参加し、認知症の理解を深めてもらうように努力している。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域活動の参加や近隣地域の行事等の参加で交流ができるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 近隣地域の高齢者との交流は、取り組めていない。 | | |
| 3 理念を实践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 全職員で自己評価の作成に取り組み、グループホームの役割の理解、ケアの改善などに活用している。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 全職員が運営推進会議に参加できる体制をつくり、外部の方の意見を聞きサービス向上に活かしている。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 現在は取り組んでいない。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 個々の必要については、家族からの相談や依頼で状況に応じた支援をしている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束委員会を設置し、定期的に研修を取り入れ、職員が継続的に学べる機会を設けている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約解除時には、入居者や家族が不安にならないよう説明し、解除後でも分からないことなどは相談してもらえるようにしている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 入居者の不満などを聞く機会は設けていない。ただし、日々の生活の中で、入居者の表情や言動に注意し、意見として運営に反映させている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 月に1回の月間報告で、生活状況や健康状態などを知らせている。また、入居者の状況に応じて電話連絡や報告をしている。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 面会時や家族会で家族の意見を聞くようにしている。不満や苦情に対しては迅速に解決できるようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ユニットチーフが、日々、職員の意見や提案を聞きとれるようコミュニケーションを取り、管理者や代表者に相談できるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 入居者の要望や状況での時間の確保は出来るだけ調整できるように努めている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|-----------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>ホーム内での移動は定期的実施している。入居者にダメージが無いようにユニット間の申し送りや応援体制で顔なじみになれるよう配慮している。職員の離職の軽減の為、定期的に個人面談を実施している。</p> | | |
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p> | <p>年間を通じて内部、外部に参加できるよう研修の確保をしている。</p> | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | <p>認知症実践者研修性の受け入れで交流のきっかけづくりをしている。研修などの参加で意見交換や情報交換を行っている。</p> | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | <p>定期的な個人面談を行い、悩みや今後のことについて相談できる仕組みがある。</p> | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | <p>業務連絡表で目標の設定を行い、その月の業務内容で勤務状況の把握をしている。そのことから、努力や実績の評価をして向上心が持てるように取り組んでいる。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div> | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | <p>入居前に事前面談を行い、本人、家族から十分に話を聞き機会をつくっている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 訪問調査や来園時に家族の納得がいくまで話を聞く機会を設け、今後のことを一緒に考える努力をしている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 相談内容により適した対応ができるようにしている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 御本人の性格や今までの生活状況から、雰囲気に馴染むよう見学や遊びにこれる体制をとっている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の生活の中で、できることを見極め、共同して行うこと、支援が必要なことなど状況に応じて行っている。また、料理作りでは、入居者が職員に教える場面がよく見られる。 | | |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族面会や連絡時に入居者の状況や日常の様子を知らせている。伝えたい事や変わったことがあれば、その都度連絡し一緒に支えてもらうように支援している。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 面会時や家族会など、日々の生活の中での気づきや入居者の思いなどを代弁し、家族との交流や家族への思いを伝える努力をしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 30 | <p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> | <p>要望や依頼で支援するための取り組みなどを検討していきたい。</p> | | |
| 31 | <p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p> | <p>利用者が集まり過ごせる空間提供し、孤立している入居者に対しては職員が中に入り利用者同士の関わりが持てるように努めている。</p> | | |
| 32 | <p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p> | <p>家族がホームを必要とされれば、継続的な関係が断ち切れないようにしている。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div> | | | | |
| <p>1 一人ひとりの把握</p> | | | | |
| 33 | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>入居者や家族からの情報収集や日常生活から本人の思いを汲み取る努力をしている。</p> | | |
| 34 | <p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p> | <p>入居前や入居後、生活状況やサービス利用など、本人や家族に聞き取れることは聞きとれるよう努力している。</p> | | |
| 35 | <p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p> | <p>一日の介護記録で入居者の健康面、心身状態、役割の参加などを記録に残し、入居者の全体像がみえるように努めている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 入居者が生き生きとした生活が継続できるよう、本人の持っている力や能力が活用できるような介護計画が作成できるようにしている。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 6 ヶ月単位で見直しを行い、現状にそくした計画作成をしている。変化が生じた場合は、現状にあった計画作成ができるようにしている。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の申し送りで、入居者の情報を共通理解できるようにしている。計画作成者に申し送り、見直しができるようにしている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 地域の方、ボランティアの方の協力により、本人の意向にできる限り応じた支援ができる体制を整えている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------|---------------------------------|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 状況変化等の必要に応じ、居宅のケアマネージャーや他の施設との相談員をサービス支援の相談や協力体制はできている。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 必要に応じて対応していく体制はできている。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 家族の意向に沿うようにしている。入居者の状態におうじた受診を家族に説明し納得いただき支援している。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 主治医の定期的な回診で、入居者の状態を相談、助言、指示を受けられるようにしている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護師が常勤で勤務し、日常の健康管理やかかりつけ医との連携を行っている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入居者の性格や日常の様子を申し送りをしている。定期的な面会を利用し、状況に応じた連携をとっていきたい。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|---|-----------------------|---------------------------------|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>重度化した入居者の終末期の意向を書面で聞き取りしている。入居者の意向を職員が共有できるよう書面を計画書に添付する。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>入居者の状況変化で対応できるよう、看護師がかかりつけ医と連携をとっている。変化に対する対応はカンファレンスで職員が状況に応じての対応ができるようにしている。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>転居の際には、情報提供を十分に行い、家族及び関係者との情報交換で入居の負担が少なくなるよう努力している。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | | | |
| <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>相手の目線や尊敬の気持ちを持って対応することで、一人ひとりの尊厳が損なわれないような援助を心がけている。</p> | | |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>入居者の話をゆっくり聞き、コミュニケーションを大切に、言葉に出せない事や言えない事、日々の生活の中から汲み取る努力をしている。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>入居者の思いを優先した支援を心がけているが、状況に応じて希望に添えないときもある。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 入居者の好みの色やスタイルを把握し、服装や髪型の助言や支援を行うようにしている。理美容室は、本人、家族の意向を聞きいれ対応するようにしています。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 入居者の力量にあった取り組みとして、食材の準備、調理、片付け等を 個々の入居者に職員が声をかけ参加できるように心がけています。 | | 現在、一日を通してのグループホーム内の食事提供は週4回を行っているが、状況を見ながら増やしていくように取組んでいきたい。 |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 施設からの提供のおやつや定期的なお茶会で、一人ひとりの好みに合わせ楽しめるように努力しています。 | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 排泄は、定期的なトイレ誘導、訴え時、落ち着かないなど個人のサインを見極めて援助しています。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 職員の勤務時間や時間帯によっては制限があるが、可能な限り、本人の希望に添えるようにしている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 本人の希望、体調等に合わせた休息の方法を職員が把握し支援している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|-------------------|---------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。 | 入居者の身体機能や性格に合わせ、洗濯たみや掃除、食後の洗いものなどを役割として行ってもらっている。また、楽しみごととして塗り絵、カラオケ、計算訓練など個人に合わせて実施している。 | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 個人の金銭管理は、家族の意向に沿った対応をしている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 職員の人数から、すべての入居者の希望での行動はできないが、天気が良い時には、数人毎に散歩に出かけたり、買い物は施設内の売店で好みのものが買えるようにしている。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 普段の会話から行きたい場所などを聞き取り、入居者全員が参加できるような計画を立てている。家族との外出は実施していない。 | | |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 要望に応じて、公衆電話の使用で家族や友人との交流をしている方もいる。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族や友人が来られたら、ゆっくり過ごせる場所、居室や廊下など日頃、入居者が安心して落ち着いて過ごせる場所に対応できるよう支援している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-------------------|--|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束委員が中心となり、身体拘束をしないケアの取り組みを状況に応じてできるよう、定期的な勉強会で身体拘束や虐待の理解を深める体制を整えている。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 鍵をかけないでできるようなケアが実践できるように個々の入居者の行動を職員が把握できるような体制を整えている。日中は玄関を開放している。 | | |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は、入居者一人ひとりの行動パターンを把握し、昼夜を通して見守りを行っている。夜間は、1時間毎の巡回で安全に配慮している。 | | 徘徊や帰宅願望の強い方など、その方のその時の思いを汲み取り、安全であれば制止することなく行動できるように取り組んでいきたい。 |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 利用者の力量に応じ、ハサミや裁縫道具を個別で管理してもらっている。台所の包丁などは、鍵のついた所に保管してある。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 緊急時のマニュアルをもとに、内容を把握し 事故防止に努めている。インシデント、アクシデントリポートの提出で事故に応じた対応方法を事故対策委員にて検討する体制がある。 | | |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 緊急マニュアルをもとに 看護師と連携を取り、急変や事故発生に備えている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|---|-----------------------|---------------------------------|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年に2回の防災訓練で夜間と昼間を想定し、入居者と職員が協力し避難ができるよう行っている。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。 | 入居時や個人の身体状態によって転倒や誤嚥などの起こり得るリスクを説明し、対応方法などについて説明している。併設施設のリスク委員会と対策を検討する仕組みがある。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 朝の申し送りで入居者の健康状態を把握している。体調の変化や異常がある場合は、看護師に申し送り適切な指示、対応ができるようになっている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 投薬シートを作成し、個々の薬状況を把握し、処方箋で主な作用や飲み方、注意事項などが確認できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 排便習慣を把握し、状況に応じた散歩や水分補給で便秘の予防に努めている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 個人の状況に合わせて一日3回の食後のうがい、歯磨きを実施している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|-----------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できる よう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 個人の病歴や食習慣に合わせた対応に心がけている。例 えば、活動量が少ない人と活動量の多い方では主食の量 を増減して対応。水分量は、1300cc が日常的に取れるよ う、提供時間や本人の好みのもを提供するなどの工夫 をしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | 感染マニュアルを作成し、手順に沿った対応ができるよ うになっている。日頃から手洗い、うがい、設備品の消 毒の実施。状況に応じて感染委員からの予防対策などの 指導も受けている。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の 衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 食材取り扱い時、使い捨て手袋を利用する。夜間、冷蔵 庫内の食品の賞味期限の管理、庫内消毒を行い、食品の 衛生管理に努めている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出 入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 玄関先に季節の花や植物や入居者の作品を展示し和やか な雰囲気ができるよう工夫している。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等） は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や 季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 天窓からの日差しは、日差し遮断フィルムはって対応。 玄関周りを落ち着いた雰囲気にするため、季節の飾りや 椅子などを配置し利用者が落ち着ける場所を提供してい る。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|-------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共用の庇`ンク`以外に廊下を利用し、畳ベンチの設置でも、気の合う同士でのくつろげる空間を造っています。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居の際には、少しでも従来の生活空間と違和感が無いよう、馴染みの家具や寝具、趣味の品物等の持ち込みをお願いします。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 各居室に換気扇、冷暖房機器の設置。廊下やリビングにも換気、空調設備を完備しています。また、定期的に窓を開けての換気を実施しています。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 要所毎に手すりの設置。トイレには身長差の解消のための高さ調整の踏み台を設置するなど、個人が安全に生活できるよう配慮しています。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 居室やトイレ、浴室と、それぞれの表札を入居者の目の高さに設置し、場所の認識や混乱を招かないような工夫をしています。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | ベランダが狭く利用者が利用するのは難しいので、室内に物干し場を設置し使えるようにしている。 | | |